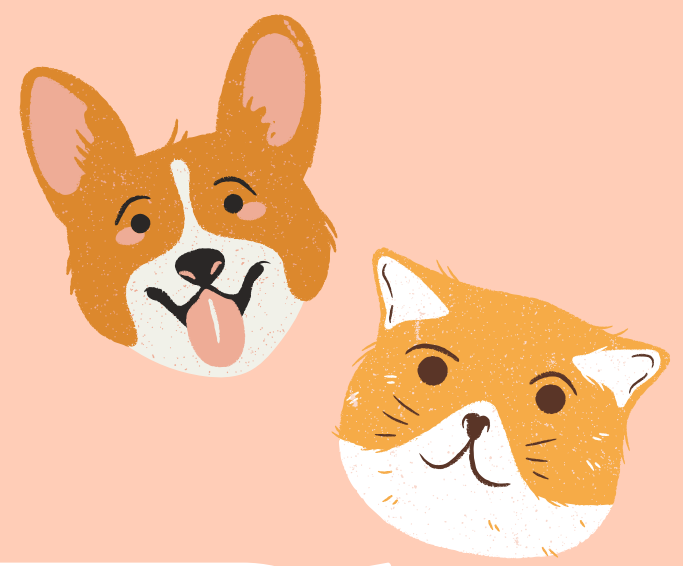


ペットの災害対策



災害があったとき、ペットをどうするか考えたことはありますか？
もしものときのために、平時から災害への備えをしておきましょう！

飼い主として準備しておくこと



もちもの

- ・ ペットフード、水
- ・ 食器
- ・ 薬、療法食
- ・ クレート、ケージ
- ・ 首輪、リード
- ・ ペットシーツ、猫砂、トイレ用品
- ・ ビニール袋、ウェットティッシュ
- ・ おもちゃ、おやつ
- ・ タオル、ブラシ
- ・ 消毒剤、消毒液

など

動物用の支援物資は準備がないことが多く、飼い主さんの責任で準備、お世話をする必要があります。



トレーニング

- ・ 災害時にすぐに一緒に避難するためには、「名前を呼んだらくる」「クレートに入ることを嫌がらない」などのトレーニングをしておくことが大切です。
- ・ 避難所でまわりに迷惑をかけないように、家族以外の人やほかの犬などに攻撃したり吠えたりしないことが望まれます。
- ・ トイレやペットシーツなど決まった場所で排泄できると管理がしやすく、また我慢することにより泌尿器系の病気になってしまうことを防ぐことができます。



健康管理

- ・ ワクチン
- ・ 駆虫
- ・ 健康診断
- ・ 狂犬病予防法に基づく登録、予防注射(犬の場合)

※不妊去勢手術もしておく、発情によるトラブルや望まない繁殖を防ぐことができます。

避難所に連れていく場合、原則として「健康管理やトレーニングができていること」が受け入れの条件になっている場合がほとんどです。

同行避難？同伴避難？

- ・ **同行避難**：家から安全な場所に移る「避難行動」
- ・ **同伴避難**：被災者（飼い主）が避難所でペットを飼養管理すること（「状態」）

どちらも『避難所で飼い主さんとペットが
同じスペースで過ごすこと』を示す言葉ではありません。

お住まいの近くの避難所でどういう対応が想定されているのか、前もって調べておく
と備えにつながります。

被災した時の過ごし方・注意点

過ごし方	注意点など
避難所に同伴避難	すべての避難所で対応できるわけではありません。 また、ペットを保管する場所も避難所により様々です。
車中泊	長期にわたる場合はエコノミークラス症候群のリスクが高まる ので注意が必要です。
テント泊	季節によっては室温の調整が難しくなります。
ペットホテル 動物病院	有料で預かる施設はありますが、長期間に渡るとかなりの負担 になります。
親類、知人宅	お互いの状況がわかっているといざという時に協力し合えます。 長期間に渡る場合は配慮が必要です。
自治体等の 災害対策シェルター	大規模な災害の場合、自治体等が動物の緊急保護施設を設置す ることがあります。また、ペットホテルなどと連携して災害時 の受け入れをしている自治体もあります。
在宅避難	住み慣れた自宅でペットと過ごすことです。気を遣うことが少 ない反面、二次被害の恐れがあったり、自治体からの情報が届 きにくいことがあります。

プラスワン



ペットとはぐれてしまった時などに、自分のペットであることを飼い主自身が証明
したり、迷っているペットを探すための情報として提示できるものを準備しましょう。
（ペットの写真、品種、性別、特徴、持病等の情報など）
また、ペットには迷子札をつけておく、マイクロチップを装着・登録しておく、
重要な手がかりとなります。

長野県動物愛護センター「ハローアニマル」
所在地：長野県小諸市菱平2725
電話番号：0267-24-5071

